【 診療科：血液内科】
【 レジメン登録番号：IG-68 】

〈 PAd療法（ベルケイド皮下注） 〉

	投与量	投与経路	投与スケジュール（day） 1 2 3 4 5 ・・・ 8 9 ・・・ 11 12 ・・・・・・・・・・・・・・・ 28
ベルケイド	1.3mg/㎡	sc	○ ○ ○ ○
アドリアシン	20mg/㎡	div	○ ○
デキサート注	39.6mg/day※1	div (p.o.)	○ ○ ○ ○
（デカドロン錠 or レナデックス錠）	（40mg/day※1 ）		

【1コース期間： 28日】　【総コース数： 6 コース】

【適応癌種：再発・難治性の多発性骨髄腫 】

【時期： 術前 、 術後 、 手術不能・進行・再発 】

【休薬・減量に関する要件】

項目	基準	減量内容	休薬時の再開基準
薬剤投与基準量	ｸﾞﾚｰﾄﾞ3以上の非血液毒性（末梢性ﾆｭｰﾛﾊﾟｼｰ、神経障害性疼痛を除く），またはｸﾞﾚｰﾄﾞ4の血液毒性発現時	休薬	休薬前の投与量で、1.3mg/㎡→1.0mg/㎡ 1.0mg/㎡→0.7mg/㎡ 0.7mg/㎡→投与中止に変更して再開
薬剤投与基準量	神経障害性疼痛（痛み(+)のｸﾞﾚｰﾄﾞ1or痛み(−)のｸﾞﾚｰﾄﾞ2）	1.3mg/㎡→1.0mg/㎡ 1.0mg/㎡→0.7mg/㎡	
薬剤投与基準量	神経障害性疼痛（痛み(+)のｸﾞﾚｰﾄﾞ2or3）	休薬	回復時、0.7mg/㎡へ減量し週1回投与で再開
薬剤投与基準量	神経障害性のグレード4の副作用	中止	

項目	基準	減量内容	休薬時の再開基準
好中球	＜1,000		1,000≦
血小板	50,000未満		50,000以上
総ビリルビン	2以上	ｱﾄﾞﾘｱｼﾝ 50%	

投与プロトコール

Rp	薬剤名	投与経路（速度）	投与日
Rp.1	生理食塩水 100mL	div（40mL/h）	day1，4
Rp.2	5-HT_3R Blocker 生理食塩水 50mL	div（全開で）	day1，4
Rp.3	ベルケイド 1.3mg/㎡ 生理食塩水 1.2mL※3	sc	day1，4，8，11
Rp.4	アドリアシン 20mg/㎡ 生理食塩水 100mL	div（30分で）	day1，4
Rp.5	デキサート 39.6mg 生理食塩水 50mL	div（全開で）	day1，2，3，4※4
（Rp.5）※2	デカドロン錠（0.5mg） 80錠 分2 朝夕 or レナデックス錠（4mg） 10錠 分1	p.o.	day1，2，3，4

【参考文献：Annals of Oncology 19：1160-1165，2008 】
【備考：多発性骨髄腫に対する救援化学療法 】
【変法情報：※1 高齢者や合併症により、デカドロンを減量することがある。 】
【変法情報：※2 デキサートは、レナデックス錠またはデカドロン錠を、経口投与としてもよい。 】
【変法情報：※3 皮下投与では、ベルケイド1Vを生食1.2mLで溶解して調製する。 】
【変法情報：※4 レナデックスは、ベルケイドと同日に投与する場合がある。 】